

ボーリング柱状図

調査名 都市基盤周船寺川(赤間堰)地質調査業務委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1		調査位置	福岡市西区周船寺3丁目			北緯	33° 34' 34.7858"					
発注機関	福岡市道路下水道局 建設部 河川課			調査期間	平成 24年 12月 21日 ~ 25年 3月 15日			東経	130° 14' 58.6054"				
調査業者名	新地研工業株式会社 電話(092-611-5211)		主任技師	徳田 充樹		現場代理人	山下 堅志	コア鑑定者	徳田 充樹		ボーリング責任者	有吉 史紀	
孔口標高	H=6.76m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90°	使用機種	YBM製 YBM-05		ハンマー 落下用具	トンビ	
総掘進長	22.00m		度			エンジン	ヤンマー製 NFAD8		ポンプ	YBM製 GP-5			

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	試料 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日					
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数 0 10 20 10 20 30	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値													
1					盛土・砂	暗褐色	緩い		河川堤防盛土。まさ土あるいは現地発生の砂質土を材料とする。 φ10mmの礫が少量混じる。	2/6 2.00	1.15	1	2	2	5	5											
2	4.26	2.50	2.50								1.45																
3	3.26	1.00	3.50		礫混じり砂	暗褐色	緩い		自然堆積土。礫径はφ10mm程度。下部はシルトを少量含む。		2.15	2	2	3	7	7											
4					シルト質砂	暗褐色	非常に緩い		砂とシルトが互層をなしており、砂層は帯水している。全体的には砂が優勢である。		2.45																
5											3.15	2	2	1	5	5											
6	1.06	2.20	5.70		砂	暗青灰			中砂~粗砂からなる。		3.45																
7	0.86	0.20	5.90		砂礫	暗青灰	中ぐらい		主な礫径はφ20~30mmである。		4.15	1	1	1	2	2											
8					粘土	黄灰~淡青灰	中位		乾燥収縮してやや固くなっている。深度7.0mまでは酸化して褐色を帯びる。		4.45																
9	-0.84	0.90	7.60		砂	淡青灰	緩い		中砂が主体である。深度8.4~8.5mに粘土を挟んでいる。		5.15	1	1	1	2	2											
10	-1.89	1.05	8.65		シルト	暗茶灰			腐植物を多く含んでいる。		5.45																
11	-2.24	0.35	9.00		砂質シルト	暗青灰	中位		深度方向にシルトから細砂へと漸移する。		6.15	7	5	3	15	15											
12	-3.24	1.00	10.00		シルト質砂	暗黄褐色	中ぐらい		シルトを多く含むが全体的には砂分が優勢である。		6.45																
13	-3.94	0.70	10.70		砂質シルト	暗黄褐色			細砂を含むシルト。		7.15	1	2	2	5	5											
14	-4.24	0.30	11.00		礫混じり砂	暗黄褐色	中ぐらい		中砂~粗砂からなり、礫径はφ10mm程度。		7.45																
15	-5.04	0.80	11.80		砂礫	暗黄褐色	中ぐらい		主な礫径はφ30mm程度。マトリックスはシルト混じりの砂からなる。		7.75	3	2	1	6	6											
16	-5.89	0.85	12.65								8.15																
17					強風化花崗閃緑岩	黄褐色			強風化しており、コアは土棒状に採取される。コアは掘進時に揉まれ土砂化しているが、ペネ試料に岩組織が認められる。崩すとシルト質砂となるが、岩としての結合力は残っている。下部は徐々に密実さ(固結力)が増す。		8.45																
18											8.85																
19	-12.24	6.35	19.00		風化花崗閃緑岩	黄褐色			風化している。コアは掘進によって土砂化しているが、岩組織は明瞭である。崩すとシルト混じり砂となるが、原地盤では固結しており、基盤面に相当する。		9.15	1	2	4	7	7											
20											9.45																
21											9.75																
22	-15.24	3.00	22.00								10.15	2	3	11	16	16											
23											10.45																
24											10.75																

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があります。現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
 ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。